

目次

第一節	マーレイの幽霊	7
第二節	第一のクリスマススの精霊	53
第三節	第二のクリスマススの精霊	95
第四節	最後のクリスマススの精霊	151
第五節	これで万事終わり	189
訳者解説		215

「空想する力」とは、「他者に共感する力」と言い換えてもよいかもしれない。では次に、フレッドが「親切と、寛容と、慈善と、喜びの日」と呼ぶクリスマス（イギリスのクリスマス）について見ていこう。

2 クリスマスの本当の祝い方

クリスマスは、言うまでもなく、イエス・キリストの降誕を祝う祭日である。聖書にはイエス誕生の日付の記述はなく、一二月二五日がキリスト誕生の祝祭日と定められたのは四世紀になってからである。当時ローマ帝国では太陽を崇拜するミトラス教が普及しており、その主祭日（不滅の太陽の誕生日）がローマ暦で冬至に当たる一二月二五日に祝われていた。不滅の太陽の誕生と、この世に光をもたらす神の子の誕生とが重ね合わされ、この日がキリスト誕生の祝祭日と定められたのである。

ブリテン島においても一二月二五日は新年の始まりであり、その時期にはゲルマンの冬至の祭り（ユール）やローマの農耕神サトゥルヌスの祭り（サトゥルナリア祭）がおこなわれていた。サトゥルナリア祭の魅力は、浪費、祝宴、日常的役割と身分の逆転。七日間にわたる底抜けのお祭り騒ぎと無礼講だった。六世紀末にローマから派遣された修道士アウグスティヌスは、キリスト教の布教の過程

でこうした祝祭を利用した。その結果、クリスマスは異教の祝祭の影響を強く受けたものとなった。

中世におけるクリスマスの典型は、荘園領主の邸宅で催される大規模な祝宴。クリスマスから公現日（一月六日）までの一二日間にはわたる休暇とお祭り騒ぎ。しかし、一七世紀半ばにピューリタンが実権を握ると、クリスマスの行事やクリスマス祝うことそれ自体を異教的だとして厳しく禁止した。王政復古（一六六〇）後もクリスマスの伝統がもたらしたことはなかった。そこに産業革命による都市化が追い討ちをかけ、田舎でクリスマスを祝う習慣はすたれていった。

ヴィクトリア朝時代、都市部でのクリスマスの復活に大きく貢献した二人の人物がいる。ヴィクトリア女王の夫君アルバート公とチャールズ・デイケンズである。彼らはクリスマスを祝う古い伝統を復活させ、それを家庭的な祝祭へと変えた。

一八四〇年にヴィクトリア女王と結婚したドイツ出身のアルバート公が、クリスマス・ツリーを飾るドイツの古い風習をイギリス王室に持ち込んだ。二人は毎年ウィン



図2 1840年、ヴィクトリア女王と結婚したドイツ出身のアルバート公が、クリスマス・ツリーを飾るドイツの古い風習をイギリス王室に持ち込んだ。二人は毎年ウィン

【訳者】井原慶一郎（いはら・けいいちろう）
一九六九年生まれ。鹿児島大学教授。専門は英文学、表象文化論。博士（文学）。著書に映画学叢書『映画とイデオロギー』（共著、ミネルヴァ書房、二〇一五）、訳書にアン・フリードバーグ著『ヴァーチャル・ウインドウ／アルベルティからマイクロソフトまで』（宗洋との共訳、産業図書、二〇一〇）がある。

クリスマス・キャロル

二〇一五年二月二〇日

初版発行

訳者 井原慶一郎 いはら・けいいちろう

発行者 三浦衛

発行所

春風社

Shunpuha Publishing Co., Ltd.

横浜市西区紅葉ヶ丘五三 横浜市教育会館三階
（電話）〇四五・二六一・三二六八（FAX）〇四五・二六一・三二六九
（振替）〇〇1100・1・三七五二四
<http://www.shunpu.com> ☒ info@shunpu.com

装丁・レイアウト 矢萩多聞

装画・挿絵

ソロモン・アイティンジ

印刷・製本

シナノ書籍印刷株式会社

乱丁・落丁本は送料小社負担でお取り替えいたします。

© Keiichiro Ibara. All Rights Reserved. Printed in Japan.
ISBN 978-4-86110-474-9 C0097 ¥1500E

